

# 年の差六十八才!!

望月 もちづき

彩 あや

「彩、行つて来るよ、タッチ。」

バイクに乗つて、今日も会社に行く。わたしのおばあちゃんは、七十八才。朝は四時三十分に起きて、みんなの朝ごはんを作ってくれる。歯をぬくのがうまい。運動会の練習で足がいたいともんでくれる。そして、いつも同じやさしい声で話す。

おばあちゃんは、こしとひざがいたので、歩けなくなりたいように毎日夜歩いている。たまについて行くと、どこかであがつている火花を見たり、だがし屋でおかしを買ったり、いっしょに歩く楽しい。

でも、おばあちゃんとわたしはよくけんかもある。

「彩、早くお風呂に入りな。」

「いやな事はさきにやるだよー。」

そんな時わたしは、

「分かってるよ。」

「今やろうと思った。うるさい、おばあちゃん。」

と言つてしまう。

ある日の夕方、友達と遊んでつかれて、宿題をなかなかやらないでいた。おばあちゃんに注意されていらいらしたので、「おばあちゃんなんかいない方がいい。」

と言つてしまい、あつと思った。そばにいたお母さんがものすごくおこった。おばあちゃんは、だまって自分の部屋に入つていった。

おばあちゃんの事、大すきなのに、こんなひどい事言うつもりなかつたのに。夜ねる時部屋に行つてあやまった。

「おばあちゃん、ごめんね。」

「おばあちゃんはいいいよ。でも言つてしまった言葉は消せないからね。気をつけなね。」

いつもと同じ声だった。でもおばあちゃんは今日の事わすれないと思つた。わたしはすぐ後かいした。

たのんだ事はすぐに気持ちよくやつてくれる。仕事でつかれて帰つて来ても、

「彩ただいま。」

とえ顔で言ってくれる。わたしもおばあちゃんみたいに、つかれていてもいつも同じたい度でいられるようになりたい。

わたしは、八月三十一日で十才になる。いつまでも年の差六十八才。おばあちゃんが歩けなくならないように、わたしがいっしょに歩くよ。いつもうけ止めてくれてありがとう。これからもよろしく。